

生誕三百年

「松夕」作品展

ここには物語がある…。

濃厚な四季、豊かな自然の中に
生き物たちが、のびのびと共生。
コミュニティーがあり
子育てする、つがいがおり
遠く旅立つ鶴もいます。



9/17日(土)～23日(金)

佐々木松夕顕彰会

昭和村未来を描く地域団体応援事業補助金

◆場所／徳林寺（山ノ内家の菩提寺）

大沼郡昭和村野尻字山崎

◆時間／午前十時～午後三時（最終日は午前中のみ）

◆連絡先／080-3322-4567

◆入場料／村内住民・無料　村外の人・有料（志し）

※入場の際は、マスクの着用をお願いいたします。
「松夕」の作品を一堂に展示できるのは、今回が最初で最後かも
知れません。どうぞお見逃しなきよう。



ここには物語がある……。

十九歳で会津藩のお抱え絵師、棚木家の画塾に入門、狩野派の画号を取得するまで五十四年間の画道修行。

没年九十六歳の前年まで絵筆を持ち、生涯学習を貫きました。

『佐々木松夕』は画号で、名は幸助信秀と言います。

享保七年（1722）生まれですから、

今年でちょうど生誕三百年となります。

「松夕」の活躍した、江戸中後期の奥会津の農村の生活をイメージする事は、現代に生きる我々には、かなり困難な事だと思います。

豪雪地帯ですので、どれだけ不便で逆境な環境であったことか……。

「南山御咸入騒動」のような農民一揆も起こっていますから庶民の生活はかなり窮屈を極めていた思われます。この時代、この土地で生きて「画道」を志さずと言うようなパワーと資力はどこから生まれて来たのか、とても不思議です。

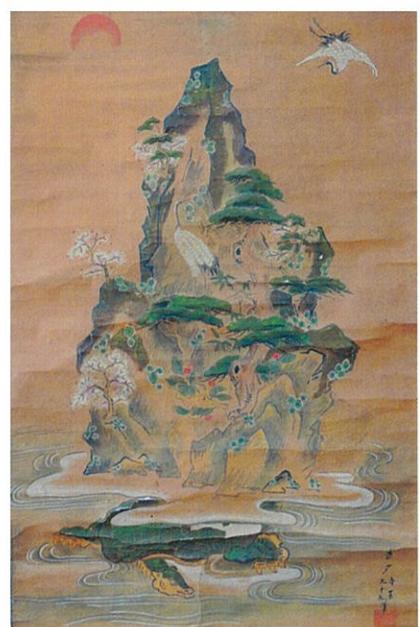
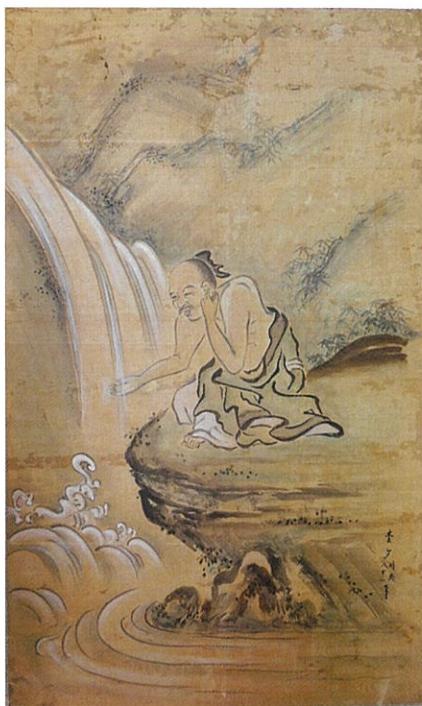
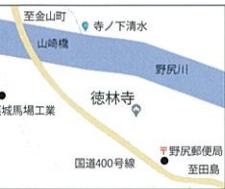
二十歳代の習作から晩年の九十歳代まで、七十点ほどの関連作品が展示されますので半世紀に渡る画道修行が、いかなるスキルアップに繋がるかを見るのも一興です。

有志による、手づくりの展示会です。

美術館のガラスケースの展示ではありますので
作品に直接に手を触れることがないよう、
注意してご観覧いただくようお願いいたします。

徳林寺には、大叔父のやはり狩野派画塾に学んだ
「庄治右衛門秀度」が描いた「涅槃図」の大掛軸が
奉納されています（展示予定）。
展示会場を選んだのも、ここに理由があります。

松夕の生きた時代の歴史的背景を知りたい方は
小林政一著「奥会津の画師 佐々木松夕」を
お読みになるか、ネットで「佐々木松夕／狩野派」を
で検索してみてください。



【掛軸】高砂図 84歳作。

謡曲「高砂」の主人公の尉と姥は、実は黒松と赤松の精。共に白髪となるまで添い遂げた理想の夫婦像とされます。松夕の自画像か？

【掛軸】達磨図 88歳作。

豪快な筆さばき、下書きなしの作品だろう。70年間の画道修行の成果がわかる。

【掛軸】蓬萊山図 95歳作

没年の前年の作品。通常は仙人の住む宮殿を描くことが多いのですが、何故か海上に浮かぶこぶりな岩山にしています。